

特 定 一 般 教 育 訓 練 明 示 書

講 座 の 名 称	東京都介護支援専門員更新研修(実務経験者)88時間				
実 施 方 法	① 通学 (昼間 ・ 夜間 ・ 土日) ② 通信 スクーリング(回数 回)				
指定講座番号(15桁)	1321462	—	2220023	—	2
講 座 の 創 設 年 月 日	特定一般教育訓練給付金 対象講座の指定期間 平成18年 4月 1日 令和10年9月30日まで	過 去 一 年 の 講 座 実 績	入講者数(80人)	修了者数 (72人)	
訓 練 期 間	4ヶ月		総 訓 練 時 間	88時間	

1. 教 育 訓 練 目 標

①取得目標とする資格の名称、目標レベル	介護支援専門員
②①に係る資格・試験等の実施機関名称	厚生労働省
③当該資格等を取得するための要件または受験資格等	東京都介護支援専門員実務研修試験合格後、 実務研修全課程を修了した者
④当該技能・知識の習得が必須又は有利となる職種・ 職務及び習得された技能・知識が活用されている 業界と活用状況	介護、福祉に関する業界 (居宅介護支援事業所、特別養護老人ホーム等)

2. 教 育 訓 練 の 内 容

教 科 (カリキュラム)	時 間	使 用 教 材 名
東京都介護支援専門員更新研修カリキュラム(実務経験者)」のとおり	88	介護支援専門員証 専門研修課程Ⅰ・更新研修テキスト 介護支援専門員研修テキスト(専門研修課程Ⅱ・更新研 修(実務未経験者32時間) 東京都介護支援専門員研修 テキスト別冊

3. 受 講 者 と な る た め の 要 件 (この講座を受講するために必要とされている条件など)

①受講するに当たって必要な実務経験等	介護支援専門員の有効期限内(5年間)中に、介護支援専門員として 実務に従事している者(6ヶ月未満)又は、従事していた経験を有する 者
②受講者が受講に最低限有しておくべき資格・ 技能・知識等の内容及びその水準	介護支援専門員
③その他	

〔 特 記 事 項 〕

--

特 定 一 般 教 育 訓 練 明 示 書

4. 教育訓練の受講の実績及び目標達成の状況									
(1)資格取得状況									
① 前年度の修了者数		75	人						
② ①に係る教育訓練の入講者数		80	人						
③ ②のうち目標資格の受験者数		80	人	受験率(③/②)	100.0	%			
④ ③のうち合格者数		80	人	合格率(④/③)	100.0	%			
⑤ ①(修了者数)のうち就職者数 ※1		4	人						
⑥ ①(修了者数)のうち在職者数 ※2		61	人						
※1 前年度の修了者のうち、受講開始時に職に就いていなかった者で修了後に就職した者。 この場合、就職したとは、臨時的な仕事に就職した者は含めない。									
※2 受講開始時に既に職に就いていた者で、卒業後も引き続きその職にある者及び受講開始時に既に職に就いている者で、 修了後に別の職に転職した者。									
(2)受講修了者による講座の評価等									
① 回答者総数		69	人						
② 受講開始時の就業状況等	1 正社員	35	人						
	2 非正社員、派遣社員	23	人						
	3 その他の就業(自営業等)	4	人						
	4 非就業	7	人	②B:非就業者計					
③ 受講開始前と現在の就業先の変化	1 受講開始時の就業先と現在の就業先は同じ	61	人	③の回答数合計 ※②Aと同数(又はそれ以下) <div>62人</div>					
	2 受講開始時の就業先と現在の就業先(自営業等含む)は異なる(転職)	0	人						
	3 受講開始時は就業していたが、現在は就業していない	1	人						
④ 受講後の就業形態	1 正社員	36	人	④A:就業者計 <div>62人</div>					
	2 非正社員、派遣社員	23	人						
	3 その他の就業(自営業等)	3	人						
	4 非就業者	5	人	④B:非就業者計					
⑤ 受講後の賃金変化	1 3割以上増加した	1	人	⑤の回答数合計 ※④Aと同数(又はそれ以下) <div>62人</div>					
	2 1割以上3割未満増加した	0	人						
	3 1割未満増加した	1	人						
	4 変わらない	59	人						
	5 1割未満減少した	1	人						
	6 1割以上3割未満減少した	0	人						
	7 3割以上減少した	0	人						
⑥ 講座の受講の効果	1 処遇の向上(昇進、昇格、資格手当等)に役立つ	5	人	⑥の回答数合計 <div>69人</div>					
	2 配置転換等により希望の業務に従事できる	4	人						
	3 社内外の評価が高まる	3	人						
	4 早期に転職・再就職できる	7	人						
	5 希望の職種・業界に転職・再就職できる	8	人						
	6 より良い条件(賃金等)で転職・再就職できる	2	人						
	7 趣味・教養に役立つ	9	人						
	8 その他の効果	13	人						
	9 特に効果はない	18	人						
⑦ 受講開始時に就業していなかった受講者の就業状況	1 受講中又は受講修了後3か月以内に就職した	2	人	⑦の回答数合計 ※②Bと同数(又はそれ以下) <div>7人</div>					
	2 受講修了後3～6か月以内に就職した	1	人						
	3 受講修了後6～12か月以内に就職した	1	人						
	4 就職していない	3	人						
⑧ 講座の全体評価	1 大変満足	11	人	⑧の回答数合計 ※①と同数(又はそれ以下) <div>69人</div>					
	2 おおむね満足	38	人						
	3 どちらとも言えない	11	人						
	4 やや不満	7	人						
	5 大いに不満	2	人						
(3)受講者、受給者の修了後の状況(就職等の状況、受講修了者による教育訓練への評価状況、受講後の職務内容変化等の処遇改善の状況、一定期間内でのキャリアアップ成果やその事例、在籍・採用企業の側の評価 等)									
5. 教育訓練の受講による効果の把握及び測定の方法並びにそのレベルを受講者に対して明らかにするための具体的な方法									
1に掲げた教育訓練目標に対する技能・知識のレベル到達度の			研修修了後の修了評価テストを実施し、習熟度等を把握している。						
(通信制講座の場合)									

特 定 一 般 教 育 訓 練 明 示 書

6. 受講効果の把握方法			
(1) 修了認定基準 (出席率・修了認定試験等の具体的な基準)		出席率100%、試験合格率その他、補講・追試は認めない。	
(2) 修了認定基準に係る、教育目標に対する技能・知識のレベル到達度把握・測定方法		動画講義科目の視聴を完了させ、課題を提出する。 また、全日程演習に参加する。	
7. 受講中又は修了後における受講者に対する指導及び助言並びに支援の方法			
(1) 受講中の者に対する習得度・理解度に関する具体的な助言・指導の方法		研修修了後に修了評価テストを行い、受講者の理解度・習熟度を確認している。	
(2) 受講中又は修了時における資格取得・就職への具体的なバックアップ体制 (例：資格取得関連情報や資格関連職種の求人情報の提供方法、早期就職に向けた具体的な相談体制の整備状況)		介護支援専門員サポート情報を手引きに掲載し、必要な研修を案内。	
8. その他の事項			
指定教育訓練実施者名 及び代表者名		公益財団法人 東京都福祉保健財団 (代表者名:理事長 早川 剛生)	
住所及び連絡先		東京都新宿区西新宿二丁目7番1号 TEL 03-3344-8512	
施設名称及び施設長名		公益財団法人 東京都福祉保健財団 (施設長:理事長 早川 剛生)	
住所及び連絡先		東京都新宿区西新宿二丁目7番1号 TEL 03-3344-8512	
苦情受付者	氏名 三井 裕樹 所属 人材養成部 介護人材養成室長	事務担当者	氏名 板垣 麻子 所属 人材養成部 介護人材養成室 ケアマネ担当
連絡先	TEL 03-3344-8512	連絡先	TEL 03-3344-8512
特定一般教育訓練経費	1. 特定一般教育訓練給付金の対象となる経費 (① + ②) 58,300 円		
支払い方法	① 入学料 (税込額) (※割引・還元措置を実施した場合には その差引き後の税込額とすること。)		円
	② 受講料 (税込額) (※割引・還元措置を実施した場合には その差引き後の税込額とすること。)		58,300 円 (うち、必須教材費 円)
① 一括払			
② 分割払			
③ 両方可能	2. 特定一般教育訓練給付金の対象外となる経費 (① + ② + ③ + ④) 円		
	① 任意の教材費(税込額) 円		
	② 実習等に伴う交通費・宿泊費(税込額) 円		
	③ 施設維持費(税込額) 円		
	④ その他(法人への寄付金、PCの損害保険料、情報誌代) (税込額) 円		
	3. 総額 (1+2) (税込額) 58,300 円		

更新研修(経験者88H) カリキュラム

研修科目	内容	時間数
ケアマネジメントにおける実践の振り返り及び課題の設定	<ul style="list-style-type: none"> ・各自の実践を省みる事により、ケアマネジメントプロセスにおける各項目の持つ意味と重要性に関して再確認し課題等を認識するための講義を行う。 ・専門職としての知識・技術を高めていく上での克服すべき課題等を認識する講義を行う。 ・振り返りに当たっては、担当事例を活用することし、担当事例におけるケアマネジメントの視点(アセスメントの結果から課題(ニーズ)を導き出すまでの考え方、当該課題(ニーズ)に対するサービスの選定理由等)を発表し、他の受講者との意見交換を通じて、自分自身の技量における課題を認識・理解する。 ・質の評価やデータ活用を行いながら、科学的に効果が裏付けられた質の高いサービスの提供に向けた現状の取組及び課題についての講義を行う。 	講義及び演習 8時間
介護保険制度及び地域包括ケアシステムの現状	<ul style="list-style-type: none"> ・介護保険制度の改正等の状況、地域包括ケアシステムの構築や地域共生社会の実現に向けた現状の取組及び課題に関する講義を行う。 ・地域包括ケアシステムの構築に向けて、介護支援専門員が果たすべき役割に関する講義を行う。 ・利用者が、住み慣れた地域で自立した生活を継続するためには、利用者だけでなくその家族を支援するという視点も必要であることから、ヤングケアラーや仕事と介護の両立支援等利用者の家族も含めた支援に関連する各種制度や社会資源、介護支援専門員に求められる役割に関する講義を行う。 ・フォーマルだけでなくインフォーマルな社会資源との連携やそれらの活用と働きかけに関する講義を行う。 	講義 3 時間
対人個別援助技術(ソーシャルケースワーク)及び地域援助技術(コミュニティソーシャルワーク)	<ul style="list-style-type: none"> ・対人個別援助技術(ソーシャルケースワーク)の考え方と地域援助技術(コミュニティソーシャルワーク)の概念・機能・目的に関する講義を行う。 ・対人個別援助技術(ソーシャルケースワーク)に必要な知識・技術及び地域援助技術(コミュニティソーシャルワーク)の展開技法についての講義を行う。 ・個別事例の支援から地域課題の把握、課題の共有、課題解決に向けた地域づくりや資源開発などに至る一連のプロセスに関する講義を行う。 ・実際に取り組む場である地域ケア会議の意義や機能及び一連のプロセスの中における介護支援専門員としての役割に関する講義を行う。 ・個別事例の支援や地域課題の把握から解決に向け、保険者を含む多職種連携の意義やネットワーク作りの視点と方法に関する講義を行う。 	講義 3 時間
ケアマネジメントの実践における倫理	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネジメントを実践する上で介護支援専門員が備えるべき、利用者本位、自立支援、公正中立、人権の尊重、守秘義務、利用者のニーズの代弁等の倫理に関する講義を行う。 ・ケアマネジメントを実践する上で生じうる具体的な倫理的課題に対する心構えや対応方法についての講義を行う。 ・認知症、身寄りのない高齢者、看取りのケース等における意思決定支援の必要性や意思決定に向けた支援プロセスに関する講義を行う。 ・倫理的な課題に対するチームアプローチの重要性を認識し、その手法に関する講義を行う。 ・成年後見制度や高齢者虐待防止法等、高齢者の尊厳や権利擁護に関する講義を行う。 	講義 3 時間
生活の継続を支えるための医療との連携及び多職種協働の実践	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネジメントを実践する上で必要な疾病や医療との連携、多職種協働の必要性・重要性を再確認するための講義を行う。 ・これまでの実践を省みて課題を認識し、医療との連携や多職種協働を実践していくための課題解決の方法に関する講義を行う。 ・介護支援専門員から医療機関や多職種に情報を提供する際の留意点及び、医療機関や多職種から情報を収集する際の留意点についての講義を行う。 ・サービス担当者会議や地域ケア会議における多職種との効果的な協働の手法に関する講義を行う。 	講義 4 時間
リハビリテーション及び福祉用具等の活用に関する理解	<ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーション(口腔リハビリテーションを含む。)や福祉用具等に関する基礎知識の向上と活用に当たっての基本的な視点に関する講義を行う。 ・リハビリテーション専門職及び福祉用具専門相談員等との連携方法等に関する講義を行う。 	講義 2 時間
ケアマネジメントの演習		
生活の継続及び家族等を支える基本的なケアマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネジメントを実践する上で必要な高齢者の生理、高齢者やその家族の心理、住環境や同居者の有無などそれぞれの要素と要素の関係性の重要性に関する講義を行う。 □適切なケアマネジメント手法」の基本的な考え方及び疾患の有無に関わらず、高齢者の機能と生理に基づく在宅のケアマネジメントやその前提となる多職種との情報共有において必要な視点、想定される支援内容を整理した「基本ケア」について理解する。 ・それらの関係性を踏まえたアセスメント、課題分析の視点、居宅サービス計画等への具体的な展開方法など、支援に当たってのポイントを理解する。 ・高齢者の代表的な疾患や症候群別のケアマネジメントを学ぶことの有効性について理解する。 ・高齢者の生理、心理、生活環境等の構造的な理解を踏まえたケアマネジメントに関する1つの事例について様々な状況等を勘案した、実践しうる複数の対応策(居宅サービス計画の作成)が検討できるよう、必要な知識・技術を修得する。 	講義及び演習 4時間
脳血管疾患のある方のケアマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> ・脳血管疾患の分類、症状、後遺症、生活障害の程度と身体機能の関係、廃用症候群との関係性についての講義を行う。 ・脳血管疾患における療養上の留意点や起こりやすい課題について理解する。 ・脳血管疾患に特有な検討の視点や想定される支援内容を整理した「適切なケアマネジメント手法」の「疾患別ケア(脳血管疾患がある方のケア)」について理解する。 ・脳血管疾患がある方のケアマネジメントに関する1つの事例について様々な状況等を勘案した、実践しうる複数の対応策(居宅サービス計画の作成)が検討できるよう、必要な知識・技術を修得する。 	講義及び演習 3 時間
認知症のある方及び家族等を支えるケアマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症や精神疾患に関する医学的・心理的基礎知識の向上と認知症施策に関わる多職種との連携方法等に関する講義を行う。 ・認知症等の特質性を踏まえた早期の対応方法や家族も含めた支援方法などを修得するとともに、地域で生活を継続していくための支援を行う上で必要な視点を理解する。 ・認知症に特有な検討の視点や想定される支援内容を整理した「適切なケアマネジメント手法」の「疾患別ケア(認知症がある方のケア)」について理解する。 ・認知症がある方のケアマネジメントに関する1つの事例について様々な状況等を勘案した、実践しうる複数の対応策(居宅サービス計画の作成)が検討できるよう、必要な知識・技術を修得する。 	講義及び演習 4 時間
大腿骨頸部骨折のある方のケアマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> ・大腿骨頸部骨折の原因、症状、生活をする上での障害及び予防方法に関する講義を行う。 ・その他の筋骨格系疾患の種類、原因、症状、生活をする上での障害及び予防改善方法や、廃用症候群の原因、生活をする上での障害及び予防改善方法に関する講義を行う。 ・大腿骨頸部骨折における療養上の留意点や起こりやすい課題について理解する。 ・大腿骨頸部骨折に特有な検討の視点や想定される支援内容を整理した「適切なケアマネジメント手法」の「疾患別ケア(大腿骨頸部骨折がある方のケア)」の内容を理解する。 ・大腿骨頸部骨折がある方のケアマネジメントに関する1つの事例について様々な状況等を勘案した、実践しうる複数の対応策(居宅サービス計画の作成)が検討できるよう、必要な知識・技術を修得する。 	講義及び演習 3 時間

心疾患のある方の ケアマネジメント	<ul style="list-style-type: none">・心疾患の種類、原因、症状、生活をする上での障害及び予防改善方法に関する講義を行う。・心疾患における療養上の留意点や起こりやすい課題について理解する。・心疾患に特有な検討の視点や想定される支援内容を整理した「適切なケアマネジメント手法」の「疾患別ケア（心疾患がある方のケア）」の内容を理解する。・心疾患を有する方のケアマネジメントに関する1つの事例について様々な状況等を勘案した、実践しうる複数の対応策（居宅サービス計画の作成）が検討できるよう、必要な知識・技術を修得する。	講義及び演習 4 時間
誤嚥性肺炎の 予防の ケアマネジメント	<ul style="list-style-type: none">・誤嚥性肺炎の特徴や誤嚥性肺炎の予防のためのケアマネジメントにおける留意点や起こりやすい課題を踏まえた支援に当たってのポイントに関する講義を行う。・誤嚥性肺炎の予防における「適切なケアマネジメント手法」の「基本ケア」の重要性を再確認する講義を行う。・誤嚥性肺炎の予防における検討の視点や想定される支援内容を整理した「適切なケアマネジメント手法」の「疾患別ケア（誤嚥性肺炎の予防のためのケア）」の内容を理解する。・誤嚥性肺炎の予防のためのケアマネジメントに関する1つの事例について様々な状況等を勘案した、実践しうる複数の対応策（居宅サービス計画の作成）が検討できるよう、必要な知識・技術を修得する。	講義及び演習 3 時間
看取り等における 看護サービスの 活用に関する事例	<ul style="list-style-type: none">・看護サービスに関する基礎知識の向上と活用に応じた基本的な視点に関する講義を行う。・訪問看護計画との関連付けや看護職との連携方法等に関する講義を行う。・看取り等における看護サービスの活用に関する事例を用いて、適切なアセスメントを行う際の重要なポイントや地域の社会資源を活用したケアマネジメントを実践する知識・技術を修得する。・1つの事例について様々な状況等を勘案した、実践しうる複数の対応策（居宅サービス計画の作成）が検討できるよう、必要な知識・技術を修得する。	講義及び演習 3 時間
家族への支援の視点 や社会資源の活用 に向けた関係機関 との連携が必要な 事例の ケアマネジメント	<ul style="list-style-type: none">・単なるレスパイトだけでなく今後の介護に対する不安や利用者、家族同士の軋轢への介入など家族支援における基本的な視点に関する講義を行う。・他法他制度（難病施策、高齢者虐待防止関連施策、障害者施策、生活困窮者施策、仕事と介護の両立支援施策、ヤングケアラー支援関連施策、重層の支援体制整備事業関連施策等）の知識やインフォーマルサービスの活用に係る視点が必要な事例の特徴、対応する際の留意点について理解する。・関連する他法他制度の内容や動向に関する講義を行う。・他法他制度の活用が必要な事例のケアマネジメントを行う際の社会資源の活用に向けた関係機関や多職種との連携、相互理解の必要性、状態に応じた多様なサービスの活用方法について理解する。・他法他制度の活用が必要な事例のケアマネジメントに関する1つの事例について様々な状況等を勘案した、実践しうる複数の対応策（居宅サービス計画の作成）が検討できるよう、必要な知識・技術を修得する。	講義及び演習 4 時間
個人での学習及び 介護支援専門員 相互間の学習	<ul style="list-style-type: none">・個人で専門性を高めていく際に必要な視点、手法に関する講義を行う。・指導支援、コーチング、スーパービジョン等の基本的な考え方、内容、方法を理解するとともに、これらを受ける側と行う側双方に求められる姿勢に関する講義を行う。・個人で研鑽する場合と介護支援専門員相互間で研鑽する場合に求められる内容や手法とその関係性についての講義を行う。・専門職として継続した自己研鑽を行うことの必要性重要性について講義を行う。・研修において獲得した知識・技術について、更なる実践力を身につけるため、法定外研修やOJT等を活用した、具体的な自己研鑽の実施方法、地域における学びの場や機会の状況等についての講義を行う。	講義 3 時間
研修全体を振り返っての 意見交換、講評及び ネットワーク作り	<ul style="list-style-type: none">・研修全体の振り返りを行うに当たって、グループ又は全体で意見交換を行い、専門的助言を含めて、研修における学習の成果や今後の学習課題への意識付けのための講評を行う。・現場で生じうる課題への対応や共同で研修する機会を作るため、研修受講者間においてネットワークの構築を図る。	講義及び演習 2 時間
介護保険制度及び 地域包括ケアシステムの 今後の展開	<ul style="list-style-type: none">・介護保険制度の改正等の最新状況や地域包括ケアシステムの構築に向けた現状の取組及び課題についての講義を行う。・地域包括ケアシステムの構築に向けて、介護支援専門員が果たすべき役割に関する講義を行う。・利用者やその家族を支援する上で関連する最新の制度、動向及び社会資源に関する講義を行う。・介護保険制度や介護支援専門員を取り巻く状況など現状で課題となっている事項に関する講義を行う。	講義 3 時間
ケアマネジメントの 実践における倫理	<ul style="list-style-type: none">・介護支援専門員が備えるべき、利用者本位、自立支援、公正中立、人権の尊重、守秘義務、利用者のニーズの代弁等の倫理に関する講義を行う。・高齢者の権利擁護や意思決定支援（認知症、身寄りのない高齢者、看取りのケース等）に関する制度等に関する講義を行う。・倫理的な視点を含めたケアマネジメントの実践のあり方についての講義を行う。	講義 2 時間
リハビリテーション及び 福祉用具等の活用 に関する理解	<ul style="list-style-type: none">・リハビリテーションや福祉用具等を活用するに当たって重要となる関連知識や歯科医師、リハビリテーション専門職等との連携方法に関する講義を行う。・リハビリテーションや福祉用具等の活用を検討するに当たり、効果的なものとなるようインフォーマルサービスも含めた地域の社会資源を活用したケアマネジメントの展開に関する講義を行う。	講義 2 時間
ケアマネジメントにおける実践事例の研究及び発表		
生活の継続及び家族 等を支える基本的な ケアマネジメント	<ul style="list-style-type: none">・「適切なケアマネジメント手法」の基本的な考え方及び高齢者が有する疾患に関係なく想定される支援内容及び多職種との情報共有において必要な視点を整理した「基本ケア」について理解する。・インフォーマルサービスも含めた地域の社会資源を活用したケアマネジメントの展開に関する講義を行う・各自が担当している事例（居宅サービス計画等）を持ち寄り、「基本ケア」の内容を踏まえた事例の分析、発表、意見交換等を通じて、適切なアセスメントを行う際の留意点や居宅サービス計画等の作成における留意点を理解、再確認する。それらの留意点や必要に応じ根拠となる各種統計データを活用する等により、別の類似の事例等にも広く対応することができる知識・技術を修得する。	講義及び演習 2 時間
脳血管疾患のある方 のケアマネジメント	<ul style="list-style-type: none">・脳血管疾患に特有な検討の視点や想定される支援内容を整理した「適切なケアマネジメント手法」の「疾患別ケア（脳血管疾患がある方のケア）」について理解する。・インフォーマルサービスも含めた地域の社会資源を活用したケアマネジメントの展開に関する講義を行う・各自が担当している脳血管疾患がある方のケアマネジメントに関する事例（居宅サービス計画等）を持ち寄り、「疾患別ケア（脳血管疾患がある方のケア）」の内容を踏まえ、事例の分析、発表、意見交換等を通じて、適切なアセスメントを行う際の留意点や居宅サービス計画等の作成における留意点を理解、再確認する。それらの留意点や必要に応じ根拠となる各種統計データを活用する等により、別の類似の事例等にも広く対応することができる知識・技術を修得する。	講義及び演習 3 時間

認知症のある方及び 家族等を支える ケアマネジメント	<ul style="list-style-type: none">・認知症の要介護者等及び家族を支援するに当たり重要となる各種知識及び医療職をはじめとする多職種や地域住民との連携方法に関する講義を行う。・認知症に特有な検討の視点や想定される支援内容を整理した「適切なケアマネジメント手法」の「疾患別ケア（認知症がある方のケア）」の内容を理解する。・インフォーマルサービスも含めた地域の社会資源を活用したケアマネジメントの展開に関する講義を行う・各自が担当している認知症等により生活障害がある方のケアマネジメントに関する事例（居宅サービス計画等）を持ち寄り、「疾患別ケア（認知症がある方のケア）」の内容を踏まえ、事例の分析、発表、意見交換等を通じて、適切なアセスメントを行う際の留意点や居宅サービス計画等の作成における留意点を理解、再確認する。それらの留意点や必要に応じ根拠となる各種統計データを活用する等により、別の類似の事例等にも広く対応することができる知識・技術を修得する。	講義及び演習 4 時間
大腿骨頸部骨折の ある方の ケアマネジメント	<ul style="list-style-type: none">・大腿骨頸部骨折に特有な検討の視点や想定される支援内容を整理した「適切なケアマネジメント手法」の「疾患別ケア（大腿骨頸部骨折がある方のケア）」の内容を理解する。・インフォーマルサービスも含めた地域の社会資源を活用したケアマネジメントの展開に関する講義を行う。・各自が担当している大腿骨頸部骨折のある方のケアマネジメントに関する事例（居宅サービス計画等）を持ち寄り、「疾患別ケア（大腿骨頸部骨折がある方のケア）」の内容を踏まえ、事例の分析、発表、意見交換等を通じて、適切なアセスメントを行う際の留意点や居宅サービス計画等の作成における留意点を理解、再確認する。それらの留意点や必要に応じ根拠となる各種統計データを活用する等により、別の類似の事例等にも広く対応することができる知識・技術を修得する。	講義及び演習 3 時間
心疾患のある方の ケアマネジメント	<ul style="list-style-type: none">・心疾患に特有な検討の視点や想定される支援内容を整理した「適切なケアマネジメント手法」の「疾患別ケア（心疾患がある方のケア）」の内容を理解する。・インフォーマルサービスも含めた地域の社会資源を活用したケアマネジメントの展開に関する講義を行う・各自が担当している心疾患を有する方のケアマネジメントに関する事例（居宅サービス計画等）を持ち寄り、「疾患別ケア（心疾患がある方のケア）」の内容を踏まえ、事例の分析、発表、意見交換等を通じて、適切なアセスメントを行う際の留意点や居宅サービス計画等の作成における留意点を理解、再確認する。それらの留意点や必要に応じ根拠となる各種統計データを活用する等により、別の類似の事例等にも広く対応することができる知識・技術を修得する。	講義及び演習 3 時間
誤嚥性肺炎の 予防の ケアマネジメント	<ul style="list-style-type: none">・誤嚥性肺炎の予防における「適切なケアマネジメント手法」の「基本ケア」の重要性を再確認する講義を行う。・誤嚥性肺炎の予防における検討の視点や想定される支援内容を整理した「適切なケアマネジメント手法」の「疾患別ケア（誤嚥性肺炎の予防のためのケア）」の内容を理解する。・インフォーマルサービスも含めた地域の社会資源を活用したケアマネジメントの展開に関する講義を行う。・各自が担当している誤嚥性肺炎の予防のためのケアマネジメントに関する事例（居宅サービス計画等）を持ち寄り、「疾患別ケア（誤嚥性肺炎の予防のためのケア）」の内容を踏まえ、事例の分析、発表、意見交換等を通じて、適切なアセスメントを行う際の留意点や居宅サービス計画等の作成における留意点を理解、再確認する。それらの留意点や必要に応じ根拠となる各種統計データを活用する等により、別の類似の事例等にも広く対応することができる知識・技術を修得する。	講義及び演習 3 時間
看取り等における 看護サービスの 活用に関する事例	<ul style="list-style-type: none">・各自が担当している看護サービスを組み入れた居宅サービス計画等を持ち寄り、事例に関して分析した内容の発表、意見交換等を通じて、適切なアセスメントを行う際の留意点や居宅サービス計画等の作成における留意点を理解、再確認する。それらの留意点や必要に応じ根拠となる各種統計データを活用する等により、別の類似の事例等にも広く対応することができる知識・技術を修得する。・看取り等を含む看護サービスを活用するに当たって重要となる各種知識や医師、看護師等との連携方法に関する講義を行う。・看取り等を含む看護サービスを検討するに当たり、効果的なものとなるようインフォーマルサービスも含めた地域の社会資源を活用したケアマネジメントの展開に関する講義を行う。	講義及び演習 3 時間
家族への支援の視点 や社会資源の活用 に向けた関係機関と の連携が必要な事例 のケアマネジメント	<ul style="list-style-type: none">・家族に対する支援に当たり重要となる各種知識や関係機関、地域住民をはじめとする多職種との連携方法に関する講義を行う。・他法他制度（難病施策、高齢者虐待防止関連施策、障害者施策、生活困窮者施策、仕事と介護の両立支援施策、ヤングケアラー支援関連施策、重層的支援体制整備事業関連施策等）の活用が必要な事例の特徴、対応する際の留意点に関する講義を行う。・関連する他法他制度の内容や動向に関する講義を行う。・インフォーマルサービスも含めた地域の社会資源を活用したケアマネジメントの展開に関する講義を行う。・各自が担当している家族への支援の視点や他法他制度の活用が必要な事例（居宅サービス計画等）を持ち寄り、事例に関して分析した内容の発表、意見交換等を通じて、適切なアセスメントを行う際の留意点や居宅サービス計画等の作成における留意点を理解、再確認する。それらの留意点や必要に応じ根拠となる各種統計データを活用する等により、別の類似の事例等にも広く対応することができる知識・技術を修得する。	講義及び演習 4 時間